



いぐち もとふみ

2007-2008

富山グラウジーズ
外国籍選手スカウト

2009-2011

滋賀レイクスターズ
アシスタントGM兼通訳

2011-2013

岩手ビッグブルズ GM

2013-2014

大阪エヴェッサ
代表取締役兼GM

2014年から現在に至る

元FIBA国際公認代理人/JFA
スポーツマネージャーズカレッジ
12期生

低コストのアリーナで自治体に貢献 プロスポーツ振興を

JSC株式会社 取締役執行役員
LCアリーナプロジェクトチーム

井口 基史

弊社は構造設計事務所として約20年耐震診断、携帯基地局の構造検討、超高層の構造設計を業務としていました。私は建築のプロではありませんが10数年プロバスケットチーム運営の仕事に携わり、全国のあらゆる体育館を練習時・試合開催時と利用させて頂く立場でした。そのためプロが使用する際の設営・撤去の簡略化などの際に必要な設備など、計画段階から提案することにより、建設時のローコスト（LC）だけでなく運営時のランニングコストの低減に繋がるように事業主や使用者の立場で仕事に取り組んでいます。

LCアリーナを開発するきっかけは、2016年に川淵三郎キャプテンのリーダーシップのもと、リーグが統合され新しくBリーグがスタートしました。

プロチームを1、2、3部とカテゴリー分けをする際、明確な指針として1部は5,000席以上、2部は3,000席以上の客席を備え、年間30試合の80%以上ホームゲームが開催可能な会場確保を義務づけるアリーナ要件が打ち出されました。これまで公共体育館をホームアリーナと位置づけ、一般の市民利用と試合日のバランスを地元で相談してきたチームにとって高いハードルとなり、工夫を凝らして会場確保できたチームと確保出来なかったチームが生まれ、1、2、3部に振り分けられました。

結果として会場確保の問題で実力より下のカテゴリーに割り当てられたチームもあり、涙をのんだファンや関係者を目の当たりにしました。

会場確保の難しさを私も経験しました。ある東北の球団の仕事をしているとき、ママさんバレーの大会と試合日が重なり、どうしても日程調整をお願いしなければならず、ママさんバレー代表の自宅に手土産持参で伺い、皆さんが1年かけ準備してきた大会日程の変更を何度もお願いし、なんとか譲ってくださり会場を確保できたこともありました。現在も1年前に来年の予約を各団体で話し合う調整会議が一般的なやり方です。

当社は下記のようにこれまで建設会社に見積りしなければ算出できなかった、建設費をパッケージにした3種類のアリーナを提案しています。一般的なアリーナに比べ5~10分の1を目指していますが、これは建設費の積み上げではなく、プロクラブが20年で償却できるレベルの建物を収支計画から割り出しています。当社の特徴は運営時の収支計画を練り、実現可能なアリーナの建設費を逆算で割り出すという、2017年にスポーツ庁が発表したス

タジアム・アリーナの「コストセンターからプロフィットセンターの転換を民間で実現しよう」と取り組んだものです。LCアリーナはこれまで自治体が整備する事が当たり前だった、アリーナ・体育館を民間で所有できる規模に抑える事ができたと考えています。

	LC トレーニングアリーナ	3000人 LCアリーナ	5000人 LCアリーナ	一般的な 5000人アリーナ
席数	なし or 移動席	3000席以上	5000席以上	6000~7000席
延床面積	3000㎡程度	6000㎡程度	10,000㎡程度	20,000~30,000㎡程度
工期	5~6ヶ月	6ヶ月程度	7ヶ月程度	2~2年半程度
工事費	5~10億円程度	20億円程度	35億円程度	100~230億円程度

2017年に完成した立川市のアリーナではBリーグ（バスケット）、Fリーグ（フットサル）、Tリーグ（卓球）、東レパンパシフィックオープン（プロテニス）、大相撲（巡業）と屋内プロスポーツの多くが開催されています。



2018年に完成したお台場の日本財団パラアリーナ（観客席無し）は日本初のパラアスリート専用トレーニング施設としてオールバリアフリーで全国の注目を浴びています。

いずれも総工費は通常の半分以下、5~6ヶ月の工期で使用開始する事ができ、民間で必要な土地取得→オープンスピード化に貢献出来たと考えています。

これらの実績から多くの問い合わせに対応していますが、特に自治体からは財源確保に悩む声を聞く機会があります。「100億円以上の総合体育館計画が数年前からあるが、財源確保に時間を要している」などの相談を受けた際は、弊社は20億円の体育館を5棟（①パラアスリート専用 ②バレー専用 ③バドミントン・卓球専用 ④武道専用 ⑤バスケット専用）を建て、専門性にあった利用者目線の施設にしましょうと回答しています。40年前に整備した総合体育館の機能は現代ではどの競技にもフィットしない施設になっています。

ローコスト / 短工期であれば市民サービスのストップも短く財源も痛めず、これからの時代にマッチした考え方のアリーナだと自負し、スポーツの普及と発展に寄与できる会社から成長していきたいと考えています。